

原の辻遺跡 発掘調査の歴史概要

調査年度(発見年)	主な調査成果
明治37～38年頃	吉岐の郷土史家 松本友雄が原の辻遺跡を発見する
大正～昭和初期	松本友雄が山口麻太郎とともに原の辻遺跡を中央学会に紹介・報告する
昭和14年	中学校教員鵜田忠正が幡鉾川の改修に伴い回収場所の発掘調査を実施 調査成果は昭和19年にまとめられる
昭和26～39年	九学会と東亜考古学会が原の辻遺跡を本格的に発掘調査を行う 住居域や墓域を確認 朝鮮半島系土器・鉄器・銅鏃・ト骨などを発見 石器から鉄器に変遷する過程を明確に示す遺跡として指標となる ⇒原の辻上層式の設定
昭和29年	東亜考古学会が石田大原地区で細形銅剣2本、銅矛1本を発見
昭和49年	石田大原地区で甕棺墓51基、石棺墓19基などを確認 戦国式銅剣やトンボ玉などを発見
平成3年～5年 〔1991年～1993年〕	幡鉾川総合整備計画に伴う範囲確認の発掘調査を実施 範囲確認調査で環濠の一部を確認
平成5年 1993年	丘陵の麓に沿って環濠が巡らされているのを確認 環濠内から木製桶・木製短甲・銅鏃・貨泉などを発見 ⇒多重の大規模環濠集落の発見
平成6年 1994年	丘陵の標高の一番高い部分から掘立柱建物群を確認（原地区） ⇒祭儀場の発見 祭儀場の周辺から竪穴住居13軒、土坑30基を確認（高元地区）
平成7年 1995年	確認された祭儀場を拡張して発掘調査を実施 主祭殿や平屋脇殿、丘陵を横断する区画溝を確認
平成7年 1995年	原の辻遺跡調査事務所を設置 吉岐・原の辻展示館が開館
平成8年 1996年	丘陵の西側低地で河川跡や環濠を確認（不條地区） ココヤシ笛・細形銅剣・石製把頭飾などを発見 丘陵の西側低地で船着き場跡を確認（八反地区） 丘陵の東側で竪穴住居や区画溝を発見（原地区） 甕棺墓や石棺墓など新たな墓域を確認（原の久保A地区） 内行花文鏡や小形仿製鏡などを発見
平成9年 1997年	低地の溜池工事に伴う発掘調査を実施（八反地区） 朝鮮系無文土器・床大引材などを発見 9月2日 遺跡が国史跡に指定される
平成10年 1998年	遺跡範囲を特定する発掘調査を実施（不條地区） 五銖銭・三翼鏃・滑石混入楽浪系土器などを発見
平成11年 1999年	丘陵の西側低地で弥生時代の河川跡を確認（八反・不條地区） 土器溜り遺構から貨泉・車馬具・鉄鋌・板状鉄斧・ト骨などを発見
平成12年 2000年	丘陵の西側低地で弥生時代の環濠や石組遺構を確認（八反・不條地区） 大泉五十などを発見 11月24日 遺跡が国特別史跡に指定される
平成13年 2001年	丘陵の西側低地で弥生時代の環濠を確認（八反地区） 人面石・水晶玉などを確認 甕棺墓や石棺墓など新たな墓域を確認（苅ノ木地区） 甕棺内から銅釦を発見

原の辻遺跡 発掘調査の歴史概要

調査年度(発見年)	主な調査成果
平成13年 2001年	石田大原墓域の周辺調査を実施 甕棺墓や石棺墓などを確認
	銅鏃・多紐細文鏡などを発見
	丘陵の西側低地で環濠を確認(不條地区)
	環濠内から楽浪系銅釧・貨泉・獣帯鏡などとともに人骨を発見
平成14年 2002年	丘陵の北部で住居域を確認(高元地区)
	小銅鐸の舌を発見
	丘陵の東側低地で環濠や丘陵への出入り口を確認(石田高原地区)
	竜線刻土器・ココヤシ笛・机の部材などを発見
	丘陵の西側低地で環濠を確認(八反・不條地区)
	環濠内から把手付きの木製扉材を発見
平成15年 2003年	丘陵の西側の環濠に沿って40メートル続く石組み護岸を確認(八反地区)
	ねずみ返しや小形仿製鏡などを発見
	祭儀場北側の住居域の調査を実施(原地区)
	鋳型破片と銅素材の中広形銅矛片を発見
平成16年 2004年	祭儀場の南側で周溝状遺構を確認(原地区)
	周溝内から鉄剣と折れ曲がった鉄鎌を発見
平成17年 2005年	船着き場跡の周辺調査を実施(八反地区)
	船着き場の東側に水路が巡らされていることを確認
平成18年 2006年	船着き場の周辺調査を継続して実施(八反地区)
	東側から突堤を持つ船渠部を確認
	船着き場の南側から水の流れを調整する石積み遺構を確認
	丘陵部では大規模な土器溜り遺構範囲確認調査を実施(高元地区)
平成19年 2007年	船着き場の周辺調査を継続して実施(八反地区)
	船着き場の西側から区画溝を確認
	丘陵部では大規模な土器溜り遺構範囲確認調査を継続して実施(高元地区)